

海や船親子らが学ぶ

環境問題解説や樟脳船作り

加古川

子どもたちに海や船のことは知ってもらおう「海のがくしゅう会」が、加古川市別府町港町の加古川海洋文化センターで開かれた。親子11組らが参加し、講演や

工作を通して海洋環境問題などへの理解を深めた。

同センターの主催で2020年から毎年開催し、5回目。神戸製鋼加古川製鉄所(同市金沢町)に石炭や鉄鉱石などを運ぶ旭海運(東京)の社員が講師を務め、9月28日に行われた。講演では、大きさが5リ

以下の「マイクロプラスチック」が海や魚、動物などに及ぼす影響について解説。子どもたちはクイズも交えた話に楽しく耳を傾けた。その後、クスノキ由来の成分で水面を進む「樟脳船」の工作を楽しんだ。参加した播磨南小3年の十田悠佑さん(9)は「海の生き物が好きで楽しみにしていた。樟脳船作りは楽しかったよ」と話した。

(田中朋也)

樟脳船作りに取り組み参加者。プラスチックを切り取り、思い思いのデザインに仕上げた。加古川市別府町港町、加古川海洋文化センター

